

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900089	事業の開始年月日	平成19年8月1日
		指定年月日	平成19年8月1日
法人名	医療法人社団裕正会		
事業所名	グループホームウェルケアSun		
所在地	(〒223-0058) 神奈川県横浜市港北区新吉田東8-20-33		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年12月10日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2022年も新型コロナウイルス感染予防と、その状況下での生活の質をどう保って行くのかが課題でした。  
 感染予防は昨年から引き続き、職員は自宅で検温、出勤時の検温とSPO2測定や手洗い嗽の実施。ホームではこまめな換気、消毒を行ってまいりました。  
 面会については、一時期は中止にしたりしてまいりましたが、現在では予約制で面会は2名迄でマスクとフェイスシールド着用などの制限付きで行っております。面会を再開すると、数多くの予約が入っております。面会時に利用者様だけでなくご家族様の嬉しそうな笑顔も見受けられています。  
 外出は散歩程度に抑えていて、外食などはまだ控えている状態ですが、その分、ユニット毎で夏祭りや敬老会を行ったり、ベランダへの外気浴や室内で行えるゲームやホール内を季節に合わせて飾り付けるなどを行い、また食事もランチパーティや器を変えてお弁当風にするなど、利用者様に気分転換や喜んで頂ける工夫をしております。  
 感染状況等に注意しながら、以前の様に戻せる所は徐々にでも戻せて行ければと思っております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年1月13日	評価機関 評価決定日	令和5年1月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の優れている点】**  
 ◇法人内の医療連携による安心感の確保  
 事業所は、医療法人が設置法人であることから、法人グループ内の病院や訪問看護ステーションとの協力連携を図り、質の高いサービスを提供している。月2回の訪問診療や、3か所の病院への受診のための情報提供、入院手配など医療機関と連携した介護サポート体制になっている。また、看護師が毎日訪問しており、緊急時、夜間でも利用者が安心して過ごせるよう24時間連絡体制を整備している。  
 ◇コロナ禍での穏やかな生活の工夫  
 コロナ禍で外出や買い物ができないため、事業所内で毎月イベントを開催している。夏祭りでは、焼きトウモロコシ、スイカ割等を行い、敬老会では、琴演奏、歌を唄う、お寿司の出前、メッセージカードを渡している。ハロウィンパーティでは、利用者が仮装やメイクをして写真を撮ったり、ランチピザを食している。駄菓子屋イベントでは、箱に入れた駄菓子を魚釣りに見立てて紐で引き当てる工夫をして楽しんでいる。こうした取り組みで利用者の生き生きした笑顔が見られ、スタッフのやりがいにも繋がっている。  
**【事業所が工夫している点】**  
 ◇テレビに多機能携帯電話を接続し動画配信サービスを使い体操をしたり、歌を流してみんなで唄うなど、利用者が楽しめるよう活動方法を工夫している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームウェルケアSun
ユニット名	大地

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に法人理念の説明をして一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活支援をする為に、利用者担当職員を決めて、そこから情報を共有して、一人ひとりに合う支援が出来るように実践している。	・法人理念「大切な人だから」を常に意識して明るく家庭的な生活ができるよう支援している。 ・フロア会議や研修の場で理念の実践を振り返っている。また、申し送りノートで理念に則したケアについて情報共有し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で制限があると考えられ、地域との交流が持てていない状態である。	・町内会に加入し、回覧板等を受け渡しする際に、近隣住民と会話を交わしている。 ・外気浴や散歩時に近隣住民と挨拶や会話を交わしている。 ・コロナ禍以前は、アウリンコ喫茶（認知症カフェ）を開催して地域の方との交流を図っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で制限があり地域との交流を持つ機会がない状態である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為に開催出来ずにいたが、6月より町内会長や家族などを交えて再開しており、その場で出た意見やアドバイス等を活かしている。	・運営推進会議は、2か月に1回、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、系列老健の職員等が参加して開催している。 ・会議では、町内会長から、運動会の中止や、近隣の公園にベンチが増設されたなどの地域情報の提供を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の担当者に医療券依頼や、介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。 介護相談員の受け入れは、新型コロナウイルス感染予防の為に行えていない。	・港北区生活支援課の職員が来所して、現況確認や医療券依頼等を行ったり、情報交換をしている。 ・グループホーム連絡会の役員をしており、改訂介護加算方式等の情報交換等を行っている。ズームでの会議が開催され参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	入職時に身体拘束に関する研修を行い、身体拘束ゼロの法人方針を伝えている。毎月法人内のGH管理者が集まり、身体拘束適正化委員会を開催して身体拘束の現状について話し合っている。	・身体拘束禁止のポスターや指針を事務室に掲示して、職員に周知している。 ・身体拘束等適正化検討委員会を設置して身体拘束について振り返っている。「身体拘束禁止規程と高齢者虐待の関係」等をテーマにした職員研修を行っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止に係る一斉点検実施」の依頼があり、毎年自己点検を実施して虐待に関する再認識と振り返りを行っている。また設置法人ウエルケア新吉田での勉強会も、6月よりZOOMによる参加が出来る様になり学ぶ機会を持つ事が出来ている。	・「虐待防止規程」はあるが、指針等は、現在整備中である。 ・職員は、虐待防止の自己点検を毎年実施して、ケアの振り返りを行っている。 ・不適切と思われる対応や発言があれば、その都度、職員同士で注意し合うことを徹底している。	指針の整備が期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者の担当者に医療券依頼や、介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。 介護相談員の受け入れは、新型コロナウイルス感染予防の為にできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利義務を明示し、十分に時間を掛けて説明している。質問等には、その都度丁寧にお答えをして、ご本人及びご家族の理解と同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは毎月生活状況などの報告書を送り利用者様の様子を知ってもらっている。利用者様に状況の変化があった時には報告、相談してご家族の意向等を聞いた上で、ホームの考えも伝えて援助方針を決めたりしている。	・コロナ禍以前は、年2回開催される家族会で、意見を聞き、介護や施設運営に反映していた。 ・今は、ケアプランの更新時や、毎月の生活状況報告書の送付連絡時に家族の意見を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に会議を実施しており、職員の意見などを聞き、業務に反映している。 また、個々に話しかけたり、相談をしたりとコミュニケーションを取り、働きやすい職場である様に心掛けている。	・職員意見は、ユニット会議や管理者との個人面談で、また、日常の会話の中で聞き、施設運営に反映している。 ・「おやつ後の臥床介助が必要か」「車椅子リクライニングを用いる場合の対応」等の職員意見があった。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の重度化に伴い規程の出来る範囲で人員以上の職員配置を実施し、介護の質の確保に努めている。 有給休暇も働き方改革に則り5日以上の取得が行っている。夏冬に各3日の季節休暇も提供しリフレッシュ出来るようにしている。	・管理者は、年1回の職員面談で昇給に結び付く人事考課を行い勤務実績や成果・努力を評価している。 ・法人では、認知症研修受講の奨励や介護職員実務者研修の受講料負担を行うなど職員の資格取得についての支援を行っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、入職時に身体拘束と認知症の研修を行っている。設置法人ウェルケア新吉田での勉強会も行っている。ZOOMでの参加も出来る様になり参加しやすくなっている。 介護福祉士などの資格取得サポートも実施している。	・法人では、管理者向け研修や新人職員研修を行っている。また、新人職員に対するケア技術の指導は、事業所内の先輩職員等からのOJTで行われている。 ・職員は、「終活」「食事形態や食事介助」の勉強会を自主的にやっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に1度、法人内のグループホーム管理者が集まり情報交換や意見交換、取り決めなど話し合いサービス向上に努めている。横浜市グループホーム連絡会に所属しており、ZOOMでの交流を図る事が出来ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の生活歴などの情報を収集して、入居後にどのような援助が必要かを確認している。入居後にはご本人の様子を見て、コミュニケーションを取る事で援助内容を見直したり信頼関係を構築する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時にご家族の不安や疑問点などを聞き、可能な限りご本人とご家族の思いに沿った生活を提供出来る様に努めている。ご家族には援助方法を提示してご家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には見学をして頂いている。その際にグループホームの説明を行い、ご利用者とご家族の要望に沿っているかを確認している。また、同法人の老健から入居がある時には、老健に行って利用者様の様子等をヒヤリングしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のご利用者の出来る事を確認して、出来る事はご自身で行ってもらい、職員はあえて手伝い過ぎず待つ事も心掛けている。さりげなく援助する事で出来る喜びや達成感を感じて頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には報告書を通じて毎月のご利用者の様子を知って頂いている。また、電話や報告書でご家族に依頼する事なども伝えている。コロナ禍で面会に制限があるが、面会に来られた際には報告している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為に面会中止の時期もあり、外出も制限を設けているが、面会は再開されており、ご家族やご友人と会う事ができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時前に提出された「フェイスシート」で利用者の人間関係や馴染みの場所などの情報を把握している。</li> <li>・面会時等で家族から得た昔馴染みの情報は、申し送りノートに記録し、職員間で情報共有して継続的な交流ができるよう支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者に合わせた生活を尊重しつつ、集団での生活が快適になる様に性格や関係性を考慮して職員が間に入り穏やかに過ごせる様にしている。利用者同士がコミュニケーションが図れる様に席も工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は、殆どがお看取りの為、ご家族へのフォローを行っている。また退所された入居者のご家族からお亡くなりになられたとの連絡を頂く事もあった。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを取り、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合はフェイスシートやご家族からの情報を参考にしている。	・日々の会話から利用者の思いや意向を把握して、申し送りノートに記録して職員間で情報共有している。 ・意思を伝えることが困難な方の場合は、家族や友人から話を聞いたり、本人の表情や仕草から、思いや意向を汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや職員、ご家族からの情報等を共有して、生活歴や馴染みの暮らし方や利用サービスの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の過ごし方や出来る事などを、観察して記録を残し、職員間の情報共有や会議等で、1人1人の1日の過ごし方やADLの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を設けて、フロア会議で意見やアイデアを出し合い、本人様がより良く暮らす為の課題やケアに反映して、現状に合った介護計画を作成している。	・介護計画は、6か月ごとに作成し、3か月ごとに見直している。また、体調の変化があれば、その都度、見直しを行っている。 ・モニタリングは、居室担当者が3か月ごとに行い、それを基にカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子（食事量、水分量、排泄状況、行動の様子等）、気付いた事や変化を具体的にケアカルテに入力して情報共有をしている。 また、申し送りノートにも記入して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様の状況や状態等、その時々に応じて出来るだけ希望に添える様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の為、ボランティア等の活動は出来なかったが、地域資源等を活用して施設内でのイベントの充実に力を入れていた。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の意向を大切に、主治医と連携してケアを行っている。必要時には指定の医療機関に受診出来る様になっている。 定期的（月2回）に医師の往診があり、看護師の訪問も定期的に受け、訪問歯科も定期的実施している。	・利用者と家族の同意を得て、全利用者が提携医をかかりつけとしている。内科以外の往診も可能である。 ・医師と歯科医の定期診療のほか、ほぼ毎日の看護師訪問がある。 ・通院は家族か職員が付き添い、受診記録を保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が来るので、気になる事等を相談している。 急な体調不良時等、緊急な事案が発生した場合は、随時電話にて訪問依頼して処置やドクター受診の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報提供を行い、適切な医療が受けられるよう努めている。またご家族とも連携を密にして入退院が滞りなく行えるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の方針や対応の限界等を、ご本人やご家族に説明している。その後も必要時に話し合い、ご家族の意向を確認しながらケアを行っている。	・入居時に、重度化や看取りの方針や対応を説明し、利用者と家族の意向を聞き取っている。 ・終末期には、再度、看取りについて家族と話し合い、医療関係者や職員とチームで支援している。 ・職員は看取り研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、急変時の対応方法を事前に確認する様にしている。有事の際には職員同士連携を取って対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に参加して避難できる方法を身に付けている。 年2回の防災訓練を実施している。その内の1回は消防所長立ち合いで実施している。	・年に2回、夜間や水害を想定した避難訓練を実施している。 ・3日分の非常食と水、ランタン・コンロなどを備蓄している。消防署から防災用品の助言を受けている。 ・近隣の同一法人の事業所と協力体制を取っている。	日頃から、地域の防災訓練や自治会行事への参加協力を行うなどして、災害時に近隣住民との協力関係が得られるような取り組みを図ることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重して、適切な声掛けなど気を付けている。 出来ない事があっても否定せず、受け入れて相手を傷つけない様に対応している。	・職員は、入職時研修や事業所の勉強会で学習している。 ・ドアを閉じてのおむつ交換、利用者の気持を尊重する対応などで、学習に沿ったケアに努めている。 ・気になる言葉使いがあれば、管理者がその都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や介助中等、何気ない会話の中に御本人の思いや希望等を聞く機会があれば大切にして、自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けを行いながら、ご本人の意思を大切にして、出来るだけその方のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を着替える場面などでは、洋服を選んで頂いたり、聞いたりしている。 朝は身だしなみを整えて頂いたり、介助にて整えている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット内で食事会等を行っている。また、一人一人の嗜好やアレルギー、嚥下状態なども考慮して個人に合った物を提供している。 食事前にはメニューを伝えている。 出来る方には下膳や食器拭きなどをして頂いている。	・利用者の嫌いな食材は供給先に伝えて他食材で対応している。嗜好品の買い求めは職員が行っている。 ・寿司の出前、誕生会のケーキ、行事食、利用者参加のおやつ作り、駄菓子の模擬店販売など、食事を楽しくめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定の確認や、食事や水分摂取量の確認を行い、声掛けをしたり、好きな飲み物を提供する等、細目に摂取出来る様に促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、口腔スポンジ、口腔清潔シート等、その方の状態に応じて、出来ない所は手伝ったり、見守りや声かけ等を行い支援している。義歯洗浄や消毒も行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターン等、様子を見ながら声かけをしてトイレに案内している。オムツが必要な方も、日中は出来るだけトイレに案内している。	・排泄表でパターンを把握したり、利用者の動作を見て、トイレに誘導して、排泄の自立を支援している。 ・ほとんどの利用者は昼間はリハビリパンツを着用している。職員は、必要に応じてトイレでの介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の適正摂取や乳製品を提供したりしている。また、医師や看護師に相談して排便コントロールを行っている。YouTubeを活用して体操等も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際には声かけを行い、拒否等がある場合には無理強いせず、時間をおいてから声かけをしている。入浴の際には、ゆっくり入れる様にしている。また、偏りが無い様にチェックシートを確認している。	・入浴は週2回を原則とし、入浴を嫌がる利用者には、時間をおいて声掛けしている。 ・柚子湯、菖蒲湯、入浴剤を使用して入浴を楽しめるようにしている。 ・利用者はゆっくり入浴し、職員と昔話をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や身体状況に応じて、日中にベッドで横になって頂く時間を設けている。 また、室温調整やポジショニング等を実施して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に薬の変更や追加があった時などには、状態変化に気を掛けている。 錠剤では服用が難しい方の薬は粉末状にしている。 また、誤薬や落薬が無いように必ず2人で服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1度はレクを行い、楽しい時間を設ける様にしている。 またYouTubeを活用して体操や好きな歌を流したり歌ったりしている。 機能訓練も兼ねた洗濯物たたみや食器拭きなどを一緒に出来るよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が出来なかった為、晴れた日等に施設の周囲を散歩したり、玄関脇のベンチで日向ぼっこをしたりしている。 今後は感染状況等により、出かけられるように支援していきたい。	・コロナ禍で外出は控えているが、初詣に少人数で分散して外出した。 ・車椅子利用者も含めての散歩やベンチでの外気浴は続けている。 ・外出の代用として、事業所内での夏祭りやゲーム、外食風のランチパーティを開催している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出や買い物などは出来ていない。 希望を伺ったり、生活に必要な物があつたら、職員が購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて希望があればご家族に電話をかけて本人とお話して頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出が難しい為、季節感を感じられる様に毎月フロアの壁に壁画飾りをしている。 また、入居者が気持ち良く過ごせる様に清掃や室温調整を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じた居間の壁飾りを、利用者と職員が製作している。</li> <li>・室温と湿度は職員が調整している。コロナ対応のため、換気と消毒に気を付けている。</li> <li>・居間にソファとテレビを置き、利用者は寛いで過ごしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来る利用者様同士は、席を近くにして会話がしやすい様になっている。会話が難しい方には職員が話しかけたりしている。 また、居室で休んで頂いたり、テレビ前のソファで一緒にテレビを楽しめるよう声掛けをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や使い慣れたものをお持ち頂いている時には居室に飾ったりしている。 転倒のリスクのある方は家具の配置や混乱の無いように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は、テレビ、椅子、タンス、仏壇などを居室に持ち込み、手芸品や写真を飾って、居心地良く過ごせるようにしている。</li> <li>・居室担当職員は、利用者の動線や安全を考えて、家具の配置を工夫している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたむのを手伝って頂いたり、利用者様の状態に応じて出来る事はやって頂いて、出来ない所をお手伝いするように支援している。 安全に過ごせる様、居室入り口周辺には障害物になる物は置かない様にしてしる。		

事業所名	グループホームウェルケアSun
ユニット名	太陽

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解は出来てきており意識している。一人一人を尊重して、その方に合わせて援助をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為に制限がある日々になっているので交流が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為に制限がある日々になっているので交流が出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為に開催出来ずにいたが、6月より町内会長や家族などを交えて再開しており、その場で出た意見やアドバイス等を活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の担当者に医療券依頼や、介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。 介護相談員の受け入れは、新型コロナウイルス感染予防の為にできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	知識が乏しい職員にも、しっかりと話をして身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。 また、老健での勉強会があり、オンライン等で参加出来ている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	狭い空間でのケアが中心になっている為に、複数の職員がチームケアとして業務を共有する事で虐待が行われない様な環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などへの参加の機会が少なく個人的に勉強する事が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利義務を明示し、十分に時間を掛けて説明している。質問等には、その都度丁寧にお答えをして、御本人及び御家族の理解と同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日々の利用者様との会話やコミュニケーションを図る事で理解して、内容によっては御家族とも相談して改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議等で職員の意見に耳を傾けて話を聞き、その都度意見交換をしながら改善に努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の重度化に伴い規程の人員以上の職員配置を実施し、介護の質の確保に努めている。有給休暇も働き方改革に則り5日以上取得が行えている。夏冬に各3日の季節休暇も提供しリフレッシュ出来るようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、入職時に身体拘束と認知症の研修を行っている。設置法人ウエルケア新吉田での勉強会も行っている。ZOOMでの参加も出来る様になり参加しやすくなっている。介護福祉士などの資格取得サポートも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に1度、法人内のグループホーム管理者が集まり情報交換や意見交換、取り決めなど話し合いサービス向上に努めている。横浜市グループホーム連絡会に所属しており、ZOOMでの交流を図る事が出来ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今迄の利用者様の生活スタイルに近付ける様に努め、寄り添い傾聴する事で信頼して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や心配事を聞き、安心した生活が送れる様に取り組んでいる。また利用者様と御家族の思いに寄り添った援助を共に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を利用者様と御家族にして、要望に沿っているのかを話し合う事で、より良い生活が送れる様に援助している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでもやりがい、生きがいを見出せるように援助して、家族の様な関係性が出来ているが、言葉遣いには気を付けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月御家族へ報告書を郵送して、ご本人様の生活の様子や気付きをお伝えして関係を築いている。また、面会時などにお話をしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が制限されている中、工夫をしてより良い関係が途切れない様になっている。お話をする中でも思い出したり、懐かしむ事はある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握して、利用者様が良好な関係を保てる様に、席替えや会話を繋げる等、職員が間に入ったり、職員間で情報交換しながら行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は、殆どがお看取りの為、御家族へのフォローを行っている。また退所された入居者の御家族からお亡くなりになられたとの連絡を頂く事もあった。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事、排泄、入浴、午睡等、本人の意思確認を尊重しながら行動している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間での話し合いを良くしており、個別に生活環境を把握出来ている。また、記録を参照したりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや業務記録、引継ぎノートなども活用して情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では、フロア会議やカンファレンス時に意見を出し合い、より良いケアプランにつながる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ同士で記録だけでなく画像などでも共有して話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の影響で提供出来るサービスが制限されているが、その中で人員が少ないなりに可能な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦もあり、地域との交流が出来ない状況であるが、ホーム内で安全、安心、穏やかな生活が送れる様に支援している。 可能であれば、その様な支援を行っていきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診と日々の観察、バイタル測定、医療連携体制により情報共有なども含み、必要に応じて医療サービスを受けられる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変確認時や事故発生時は速やかに電話連絡を行い、看護師対応・往診に繋げる行動を取っている。業務中に確認した事項においてはカルテに必ず記入することを心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	外部医療機関との連絡は主に管理者が行っており、申し送り等の指示に従い職員も適切に行動している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の生活状況を定期的に話し合い、必要な時期に管理者・看護職員と相談し利用者家族も含めたICの場を設け、今後の方針を説明できる環境作りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は手順書の作成やフロア会議時に議論することで、利用者が治療・処置を受けられるまで無駄な時間ロスが発生することが無いように対応できるよう努力している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っており、その内1階は消防長の立ち合いで訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、利用者様には思いやりを持ってコミュニケーションを取り、嫌悪感を示す単語やNGな会話内容については申し送り等で周知し、利用者自身が不快とならないよう連携して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行う際は表情やしぐさも読み取るようにし、要望に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助の前に説明を行い、不快とならないようにしている。利用者それぞれの生活リズム・嗜好や物事の順序を理解し、それを崩さないようにする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣服や髪型のセット等、気を使いながら介助する。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少しでも好きな物が食べられる様に、本人様の好きな物を考慮して用意している。（鰻や甘い物など）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体重状況や日頃の摂取量、嗜好を考慮し食事提供を行っている。水分摂取量は記録・申し送りを行い、十分な量が摂取できているか職員間で情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、各利用者を洗面所に案内して必要であれば介助に入り口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各利用者について、トイレ誘導やオムツ・パッド交換の予定時刻を排泄表で示しており、実施漏れが無いよう工夫している。介助においては可能な限り利用者自身でできることはやってもらい、自主性を阻害しないよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便時は医師・看護師からの指示にしたがい、日数ごとに下剤の服用・坐薬を使用する、といった手順が定められており、必要に応じて訪問看護を依頼している。また、オリゴ糖や乳製品を提供して予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各利用者によって偏りが出ない様にチェック表を使用している。入浴前に声掛けを行い、同意の上で実施し、嫌がる時には時間を空ける等している。ADLを理解し、必要な方には足台を用意して湯船に入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し、休んでいただいています。また、不眠・浅眠が続く場合は医師と連携して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの特徴を申し送りや会議などで共有してる。分からないことは、都度医師や看護師に確認してる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアでのレクリエーションが中心となっている。コロナの影響で密となる施設全体のレクリエーション等は、その時の感染状況で変化していた。また、利用者様に合わせて楽しんで頂ける事を見つけて行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、外食や花見など密集となる外出を避け、施設周辺の散歩やベランダや玄関前での外気浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、新型コロナウイルス感染予防の為に、一緒に買い物には行けないが、利用者様の希望を伺い購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・郵便物の受け取りなど対応している。ご家族への電話を希望する際は、日中に使っていただいている。また、お手紙を書ける利用者様には支援を行い、報告書と一緒に送って頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロアの飾付を行っている。テーブル席も認知症状の進行度、ADLの変化に伴い、都度変更して不快・不穏にならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室だけでなく、居間での席は可能な限り相性の良い利用者様同士になる様に配慮して、居てもほどほどの緊張感となごやかさを維持しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時と比較して、不要となった物や必要となる物をスタッフ間で確認し、ご家族と相談している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の認知症の度合いに合わせて、居室・トイレなどには名前や目印をし、手摺・エレベーターを使用して安全な移動を心掛けている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームウェルケアSun

作成日 令和 5年 2月 17日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	日頃から、地域防災訓練や自治会行事への参加協力を行うなどして、災害時に近隣住民との協力関係が得られるような取り組みを図ることが期待されます。	入居者様が参加出来るような行事等には一緒に参加していく。 また、職員だけでも参加出来る時には参加を促していく。	運営推進会議を町内会長さん等と呼んで行える様になったので、そこで自治会の行事等の情報を得る。 また、参加出来るような行事等の日には、職員の人員調整をおこない参加しやすくする。	1年
2	7	虐待防止の指針の整備が期待されます。	勉強会や一斉点検等は現在おこなっており、今後指針の整備を進めていく	令和6年3月31日までは努力義務とされているので、この期間が終わる前に、上司等と相談しながら進めていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。